

国際シンポジウム
「姓名とエスニシティ」特集

獨協大学国際教養学部
言語文化学科

国際シンポジウム「姓名とエスニシティ」特集 序言

はじめに

2014年7月19日（土）、本学天野貞祐大講堂にて、獨協大学創立50周年記念国際シンポジウム「姓名とエスニシティ—東アジアの中の多様性」が開催された。本特集は、このシンポジウムの内容を受けて、当日の報告者やコメントーターを中心に、参加した研究者の研究成果をまとめて掲載したものである。

上記シンポジウムでは東アジアの事例を中心に研究報告が行われ、東アジアをふくめた世界の様々な地域からのコメントを受けて議論が行われた。特集ではやはり「東アジア」が中心的事例となるが、「姓名とエスニシティ」をテーマとした多彩な事例・観点を盛り込んでいる。

特集の構成

上記国際シンポジウムと同様、本特集の冒頭を飾るのは羅慶春の詩文である。羅慶春氏は中国少数民族のうち、彝族の詩人であり、彝族の母語、彝語による作品を多く発表してきた。彝族は、独自の文字体系を持つ少数民族である。この詩は世界にさきがけて国際シンポジウムの会場にて発表（吟唱）され、会場を圧倒した。その彝文字と日本語の対訳の形で、その詩の内容を紹介する。国際シンポジウムでは約半分の内容を紹介したが、本特集ではその全文を掲載している。

つづいて、東アジアの事例として、報告者のうち松岡格、曾有欽、小島敬裕、コメントーターのうち飯島一彦、茂木敏夫の論文および研究報告を収録している。このうち松岡論文はこのシンポジウムの背景にある研究的視点をまとめたものである。曾有欽は台湾先住民族の事例から、内在的視点に立ってその名前と社会生活および家族制度のあり方について論じている。小島敬裕は国境地域を生きるタイ族の名前と同民族のライフサイクルについて論じている。飯島論文では沖縄を含む日本文化圏の姓名の歴史について、姓と名の違いを念頭におきつつ豊富な史料と実例をもとに丁寧に分析し、その多様性を明らかにしている。茂木論文では中国およびその周辺地域を例に、歴史的事例を紹介しながら中華と周辺それぞれの立場からの名付けと名乗りのポリティクスについて論じている。

これ以外に、佐藤勘治はスペイン語圏の地域社会における外来文化としてのスペイン語姓名の導入と個人のレベルにおける選択（あるいは戦略）について

具体的事例を挙げながら論じている。また岡村圭子は社会学的観点から姓名と身体との関係性について論じ、変化し続ける身体をつなぎとめるものとしての名前の役割を明らかにし、個人の命名の選択肢を増やすことの社会的意味について問題提起している。

この国際シンポジウムや本特集を一つの出发点として姓名についての研究が深まり、さらなる研究の進展が行われ、世界の多様性についての理解も深まれば幸甚である。最後に、以下に国際シンポジウム当日の開催概要を当日の写真とともに記録として掲載する。

記録：国際シンポジウム開催概要

国際教養学部長・飯島一彦による開幕の挨拶、同学部・松岡格による主旨説明の後、第一部の冒頭では、羅慶春（西南民族大学）により、中国少数民族、彝族母語による新作詩『ツォチ・ズッチ』の内容が、作者自身による吟唱の形で発表された。23人の名前でつながられたこの連続詩は、世界に先がけて日本（本学）、で公開されたものである。続けて植木貴美子（北海道アイヌ協会）・川上裕子（アイヌ文化アドバイザー）により、アイヌ民族と姓名についての報告、曾有欽（台湾屏東県賽嘉小学校）による台湾の先住民族「パイワン族首長家の姓名と口承文芸」についての報告、小島敬裕（京都大学）による「中国・ミャンマー国境地域におけるタイ族の宗教と姓名」に関する報告が行われた。いずれも東アジアの名付けをめぐる歴史とその多様な伝統の形をよく示す、興味深い内容であった。

第二部では、以上の内容を受けてパネリストからコメントがなされた。飯島一彦からは日本の事例をもとに、香坂直樹（跡見学園女子大学）からは東ヨーロッパの事例をもとに、佐藤勘治（国際教養学部）からはスペイン語圏の事例をもとに、茂木敏夫（東京女子大学）からは中国語圏の歴史的事例をもとにコメントがなされた。また沈元燮（国際教養学部）からは羅慶春による新作詩についてのコメントと質問がなされた。第一部で扱われた名付けのあり方とこれらの地域とのそれとの共通点や差異が浮かび上がるとともに、姓名とエスニティというテーマの予想以上の深さを示唆することとなった。

そして岡村圭子（国際教養学部）の司会による総合討論では会場から寄せられた質問、およびパネリストからの質問を受けて第一部登壇者からの応答がなされた。

参考資料：国際シンポジウム当日プログラム（当日の様子を次ページからの写真1～4で示す）

獨協大学創立50周年記念・国際シンポジウム
「姓名とエスニシティ：東アジアの中の多様性」プログラム

開催日：2014年7月19日（土）

会場：獨協大学天野貞祐記念館 大講堂

共同主催：獨協大学国際教養学部、エスニック・マイノリティ研究会、
科研費「台湾原住民族可視化の影響の複雑性の解明」

後援：財東方学会

開会挨拶 飯島一彦（獨協大学国際教養学部長・教授）
主旨説明・成果報告 松岡格（獨協大学准教授）
第一部 講演・研究報告 司会：辻河典子（EMS研究会副代表）
羅慶春（西南民族大学彝学学部長・教授） 中国少数民族 彝族母語による新作詩『ツォチ・ズウチ』（『彝語集』）発表
檜木貴美子（北海道アイヌ協会理事）・川上裕子（アイヌ文化アドバイザー） 樺太アイヌと姓名
曾有欽（台湾賽嘉小学校校長） 台湾先住民族 バイワン族首長家の姓名と口承文芸
小島敬裕（日本学術振興会特別研究員） 国境地域におけるタイ族の宗教と姓名
第二部 パネルディスカッション 司会：松岡格
パネリスト： 飯島一彦／香坂直樹（跡見学園女子大学兼任講師）／佐藤勘治（獨協大学教授）／ 沈元燮（獨協大学特任教授）／茂木敏夫（東京女子大学教授）
フロアを含めた総合討論 司会：岡村圭子（獨協大学教授）
閉会の辞 羅慶春



写真1：壇上の様子（第一部）



写真2：羅慶春（アク・ウウ）氏による詩の吟唱



写真3：会場全体の様子

姓名とエスニシティ 東アジアの中の多様性

開催日時：2014年7月19日(土) 13時~18時 ※12時15分受付開始
 会場：獨協大学天野貞祐記念大講堂
 共同主催：獨協大学国際教養学部、エスニック・マイノリティ研究会、
 科研費「台湾原住民族可視化の影響の複雑性の解明」
 後援：(財)東方学会

参加費の例、料金は:
 ①名刺かつたが、小冊子
 ②アタラシイ山崎屋の景観
 参加します。

主催: 獨協大学国際教養学部
 協賛: 獨協大学国際教養学部
 後援: (財)東方学会

獨協大学ホームページ
<http://www.dokkyo.ac.jp/>
 獨協大学 国際教養学部
sp140719@gmail.com

■プログラム (入場料、予約費、外国語の講座・報告には適用がつかず。)

受付開始	12:15
開会式	13:00~13:05
主催挨拶・送別報告	13:05~13:30
第一部 開会 研究報告	13:30~15:15
第二部 パネルディスカッション	15:35~17:20
パネリスト・第一部 / 報告披露	17:20~17:50
閉会の辞	17:50~18:00

第一部 開会 研究報告 司会: 辻川内子 (獨協大学国際教養学部) 13:30~15:15
 第一部 開会 研究報告 報告者: 獨協大学国際教養学部による報告「フォックス・ステップ」(Fox Step) 報告者: 藤本良典子 (独協大学国際教養学部) 藤本アユ子 (独協大学)

報告者: 獨協大学国際教養学部
 独協大学国際教養学部 / パネル報告者の発表と口説文
 小冊子配布 (独協大学国際教養学部) 独協大学国際教養学部 / 独協大学国際教養学部
 独協大学国際教養学部 / 独協大学国際教養学部

第二部 パネルディスカッション 司会: 松岡浩 15:35~17:20
 パネリスト・第一部 / 報告披露 独協大学国際教養学部 / 獨協大学国際教養学部 / 獨協大学国際教養学部

フロア告知パネル設置 司会: 岡村龍子 (獨協大学国際教養学部) 17:20~17:50
 閉会の辞 藤本 17:50~18:00



写真4：関係者集合写真